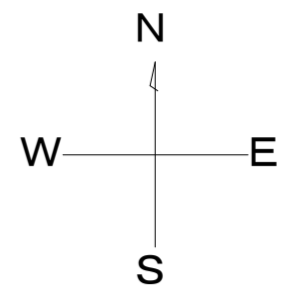
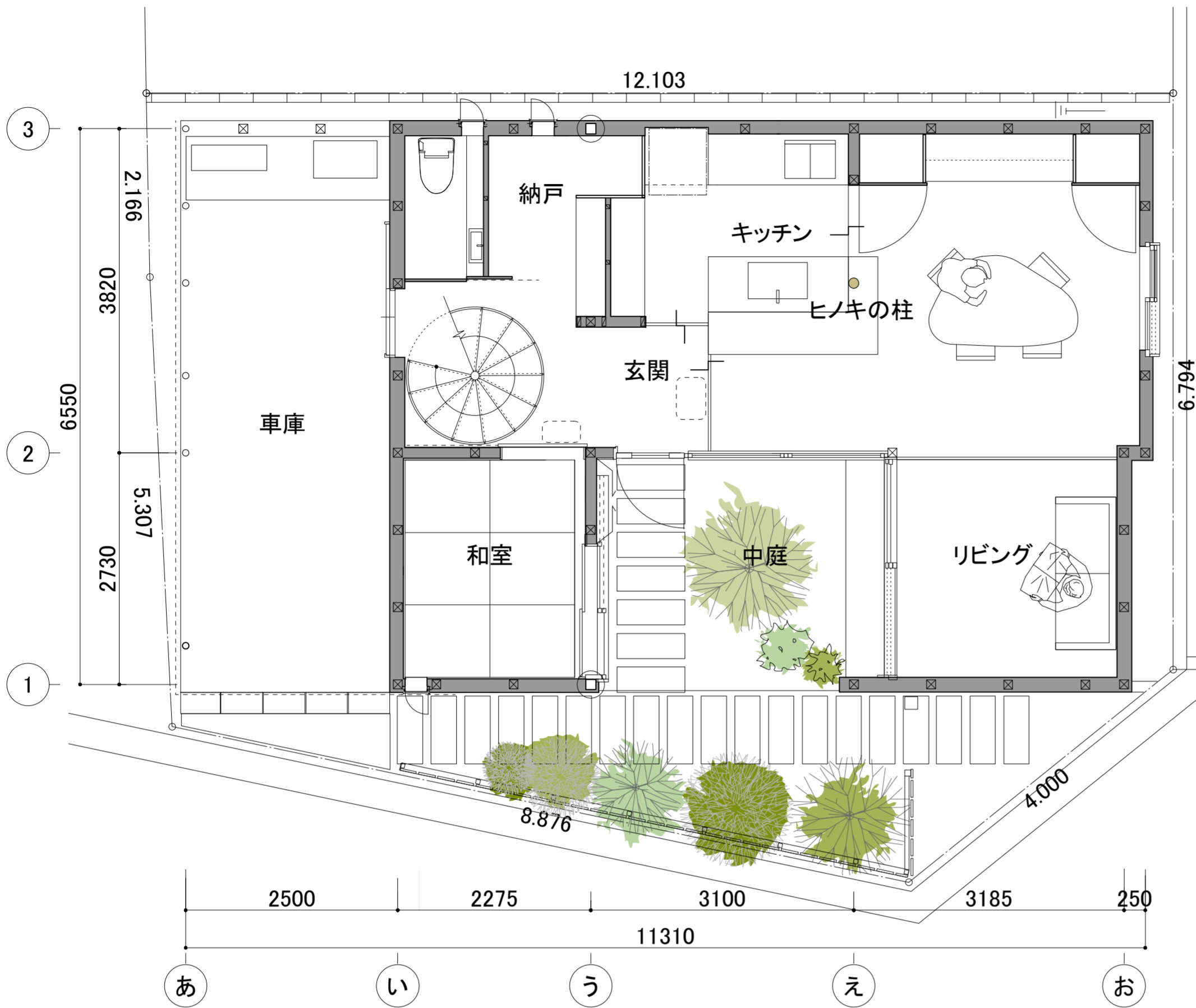


# 私たちの家

この家は設計者である私と家族のための家である。

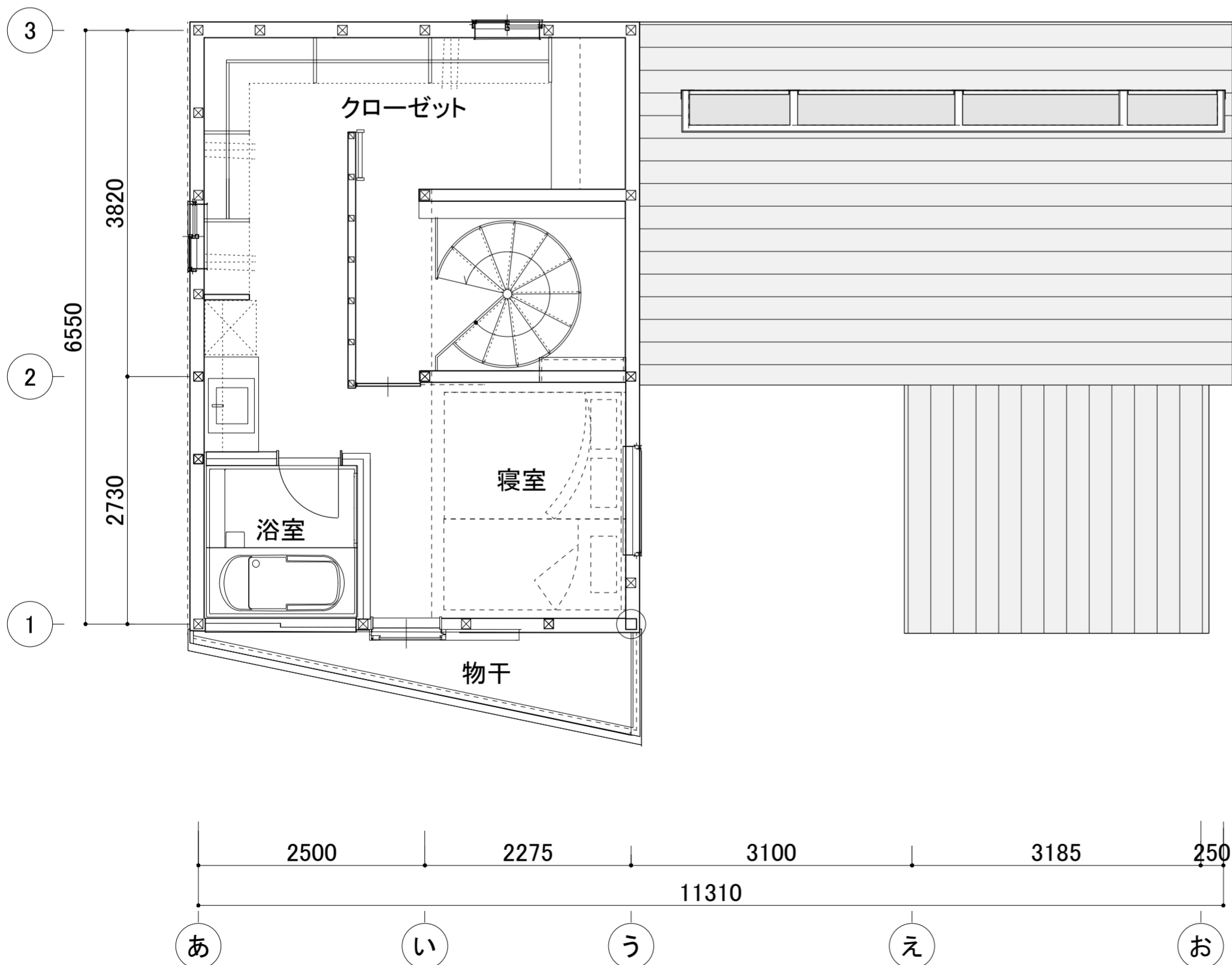
昔からの念願であった「構造材の全てを山から伐採して家を建てる」ということをコンセプトに設計した。知り合いの材木屋さんの協力を得て、私たちは京都花背の森にある木を切り倒した。樹齢数十年の樹々。木が地面に倒れる時のドーンという音と振動と風圧。私たちは命を絶ったのだと実感させられた。この体験こそが、木を切って家を建てる上で一番意味のあることだと思った。



大阪府吹田市、府内では比較的緑豊かな地域である。30坪という限られた敷地になんとか余白をつくり山採りのコナラを植えた。東側の窓からは向かいの畑に植えられた四季折々の野菜が見え、それについて家族で会話することも多い。

室内空間は、真っ直ぐな木目をした杉の連続梁が屋根を支え、また、家族で皮を剥ぎ、磨いたヒノキの丸太がLDKの中心に立っている。

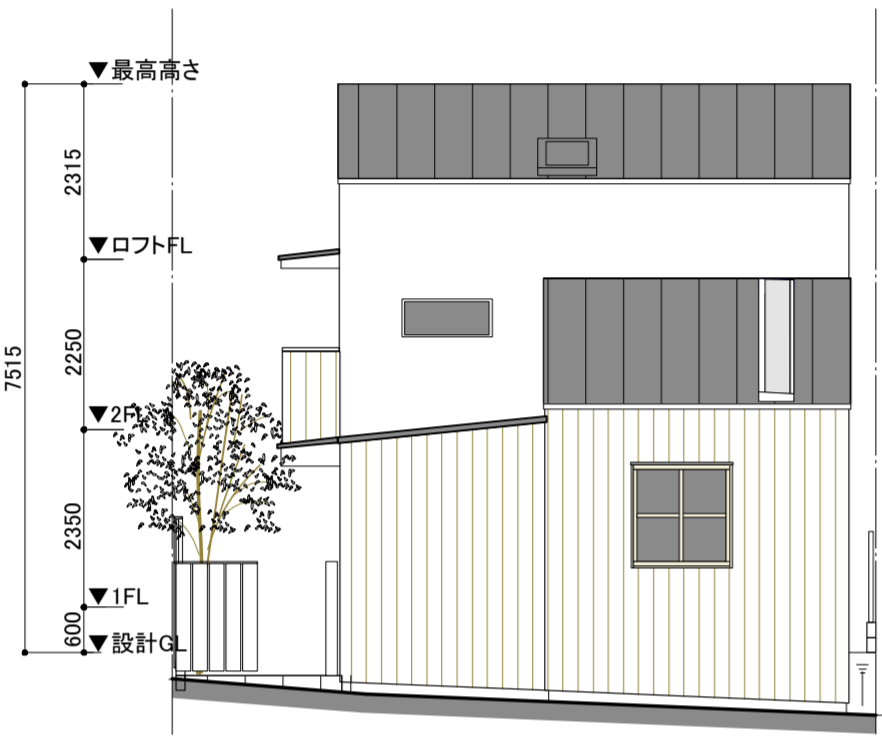
角地のおかげで、風も良く通り、私たち家族は自然の恩恵を受け四季を感じながら豊かな生活を送ることができている。



花背の森で木を切り倒しているところ



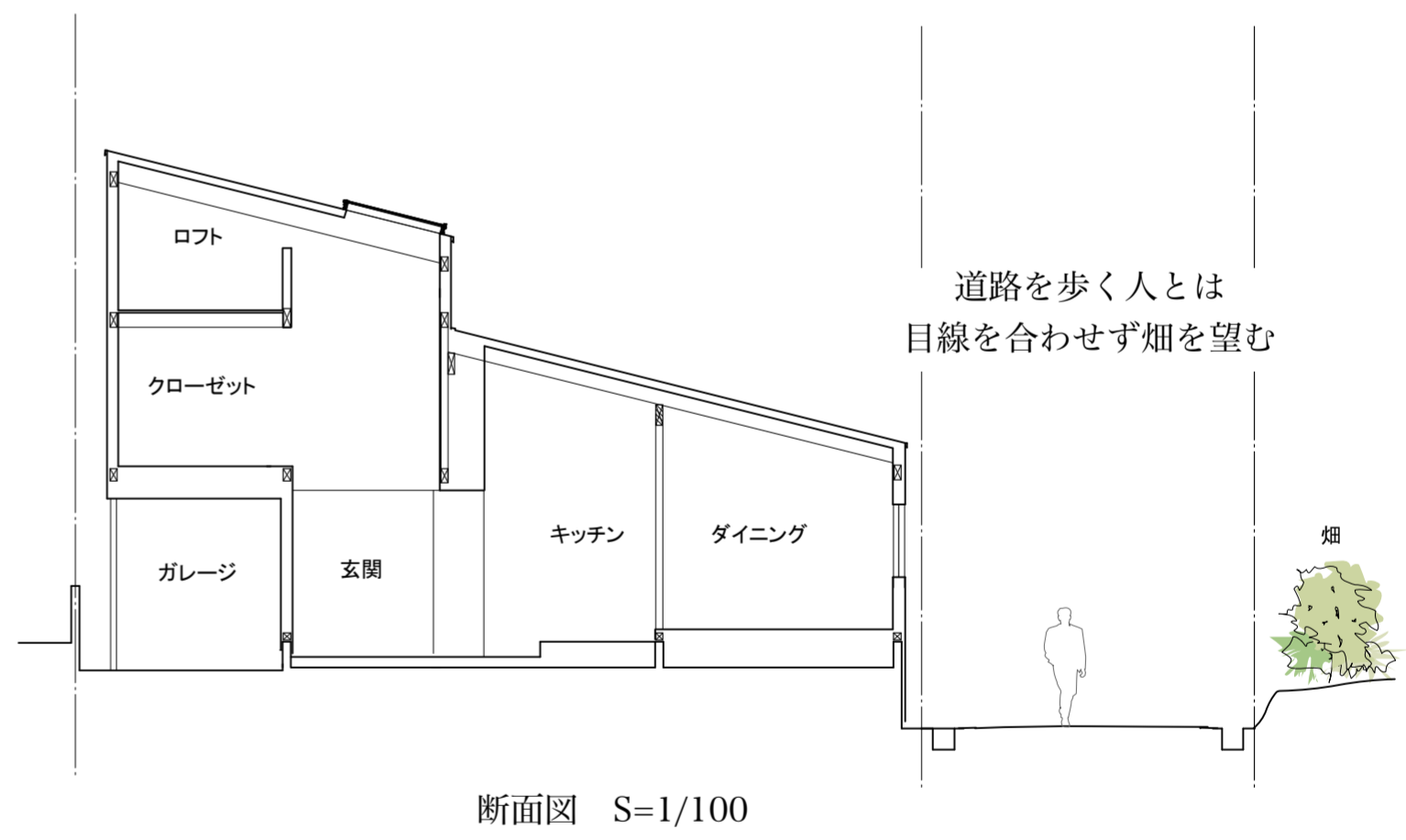
柱の皮を剥ぐ息子



東側立面図 S=1/100



南側立面図 S=1/100



断面図 S=1/100

